

平成 23 年 9 月 7 日

特定非営利活動法人パレスチナ子どものキャンペーン

レバノンの難民キャンプにおける補習クラスと心理サポートの報告

(平成 22 年度国際ボランティア貯金寄附金に係る配分事業の中間報告書・要約)

この事業は、ゆうちょ財団の国際ボランティア貯金の助成を得て実施しています。

事業の概要・進捗

<子ども向けプログラム>

【補習クラス】

目標: 補習クラス(教科指導とレクリエーション)によって、小学校 1~3 年生の児童が、学校の学習につまずくことなく、学習を継続する。学習面での改善を通して、またレクリエーションなどを通して心理的な安定を実現し、自己肯定感を持てるようにする。

進捗状況:

- ・ 補習クラスを 4 月から 7 つの難民キャンプで計画通りに実施。週 5 日の教科学習(アラビア語、算数、英語)と週 1 日のレクリエーション。
- ・ 夏休みは補習クラスのほかに、新 1 年生、及び前年末の試験で成績が悪かった子どもを対象にした集中補習クラスを 7 つの難民キャンプで実施。また夏のレクリエーションを実施。

学校で教わらない基本的知識を繰り返し指導するなど、学力向上に向けた工夫によって、クラスの質が継続的に向上している。結果的に、2010~2011 年度も多くの子どもたちが及第点を取り、補習プログラムの認知度・人気度も向上している。夏休み中は、学習困難を持つ新入生と前期の成績が悪い 2、3 年生の子どもたちを集め、集中的に実施。普段より少人数なので、ニーズがさらに具体的に分かり、継続的に最適な対応を行った。

<家族向けプログラム>

【母親向けプログラム】

目標: 補習クラスに通う子どもの親に継続的に参加してもらい、家庭でも学習面・生活面・心理面での支援を強化する。

進捗状況:

- ・ 母親向けワークショップを 4 月から毎月 1 回 7 つの難民キャンプで計画通り実施。

母親同士が子どもたちの学習面・心理面を家庭で支援する方法を話し合え、情報共有の場となっている。

家庭の抱える問題の解決の他に、趣味や特技やパレスチナの伝統文化など様々な話題が取り上げられ、難民キャンプに住む女性たちの心理サポートという役割も果たしている。

【家庭訪問】

目標：ソーシャルワーカーと時には指導員も加わって行う家庭訪問によって、各家族が抱える生活上の困難を知り、解決を提示する。

進捗状況：家庭訪問は4月～8月に計画通り実施。

各家庭の生活上の困難を緩和するために定期的に状況確認をして、家庭内の問題解決・緩和に努めている。状況調査をすることにより、子どもたちの家庭背景を把握し、心理面及び学習面・行動面の問題をスタッフ間で共有し、補習クラスなども通して対応することができている。

<心理サポート研修>

【春季研修】

目標：研修を通じて、補習クラスの指導員、ソーシャルワーカーが、現場で直面する問題や障碍に対する解決方策を知り、心理的なサポート能力を高める。またセルフケアについての知見を得る。

進捗状況：

- ・ 春季心理サポート研修を実施(4月)。
- ・ トリポリ、ベイルート、エルバスにある難民キャンプのNGO事務所で研修を実施。

今回も日本人専門家(臨床心理士)が講師として参加。心理問題に関する情報、子どもたちを心理的に安定させる学習テクニック・教室の工夫、セルフケアに関するレクチャーや参加型ワークショップを行った。補習指導員やソーシャルワーカーの心理サポート能力を継続的に高めている。

ベイルートの研修では参加者全員がシャティエラ・キャンプを視察し、実際のレクリエーションを見学して、インサービストレーニング的な情報共有ができた。

【夏季研修】

目標：アートプログラムを通じて、参加する子どもたちの心理的な安定を促進する。4月研修時に、教科学習ばかりをしていると子どもたちのストレスが溜まり、成績のよい子どもたちまでも出席率が下がっているという話が多くあった。こうした状況に対応すること、または学習困難を抱えるがアートなどは得意な子どもたちの学習意欲とモチベーションを高めることをめざす。実際の作業を通じて、補習クラスの指導員やソーシャルワーカーもアートによる心理ケアの知見を得てもらう。

進捗状況：

- ・ 夏アート研修をレバノン南部の難民キャンプにあるNGO事務所で実施。
- ・ 子ども向けアート研修と、スタッフ向けのアート研修を両方実施。
- ・ 日本人美術家が指導し、日本人ボランティアが助手として参加。

子どもたちの心理的な安定感を維持することができた。普段、勉強のみに重点が置かれている学校や家庭環境に対して、勉強以外の分野で子どもたちが才能を発揮したり、自己表現をしたり、リラックスできる場を

作れた。身近にある物を使って芸術品を作った子どもたちの自信も強まった。

スタッフ向けの研修には補習クラス指導員・ソーシャルワーカーらの他幼稚園の指導員や別団体のボランティアなどが参加。スタッフも芸術を通して自身の気持ちを表現するなど、ストレスや疲れの解消につながった。またアートによる心理ケアの知見を身に付けることができ、今後実際に自らの場で活用できるようになった。

【教材製作】

目標：補習クラスで日常的に使用できる学習教材を作成する。授業の効率化、教師の準備負担を軽減する。教材を各キャンプで常時保管して必要なときに活用できるようにして、教員が入れ替わる際も新人スタッフへ経験と知識がスムーズに伝えるための情報共有ツールともなる。

進捗状況：

- ・ 教材製作プログラムは7月から開始、8月以降も継続。
- ・ 教材製作についての打ち合わせや準備は南部、北部、バイルートの難民キャンプにある NGO 施設を利用。
- ・ 補習クラス指導員、ソーシャルワーカーが参加。

7月～8月は教材製作に関する打ち合わせ(スタッフの間での情報共有)と、各キャンプで開発・使用してきた知識や教材資料を収集した。

現地の様子(写真)

《子ども向けプログラム》





《家族向けプログラム》



《心理サポート研修》



《キャンプの様子》

